



# 法華宗信報

導～しるべ～

年頭挨拶

法華宗宗務総長 金井孝顕台下

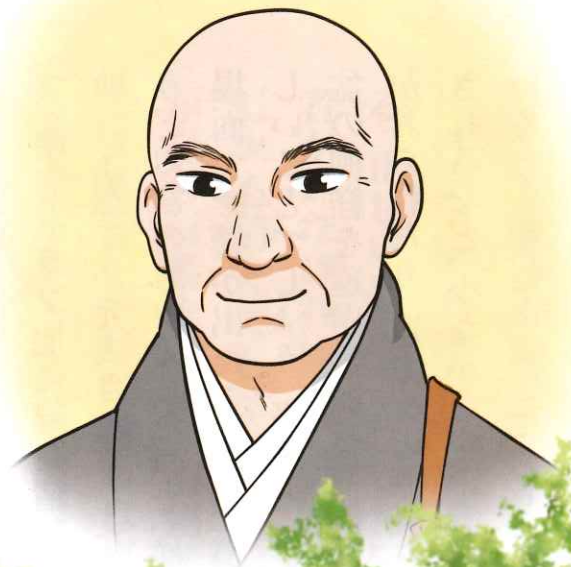
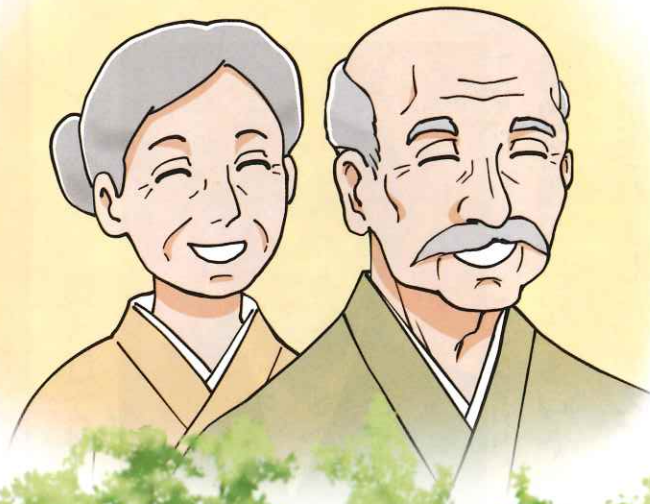
突撃取材！編集長が聞いてきた！

女性の僧侶にインタビュー！

クイズ！編集長からの挑戦！！

いまさら聞けない まめ知識！

お数珠



176号

令和7年1月1日

発行：法華宗宗務院

日蓮大聖人も、ご先祖さまも、私たちも、

あけまして

おめでとうございます

日蓮大聖人は「檀信徒がいてくださるから生きていける。法華經の行者として教えを弘めることが出来る」と仰せです。

## 年頭挨拶

法華宗 宗務総長

### 金井孝顕



『法華宗信報』の読者の皆様、新年明けましておめでとうございませう。本年も何とぞよろしくお願いいたします。

#### 自然環境の悪化

昨年は元日早々に能登半島地震が発生、当宗でも富山県射水市の御廟所誕生寺様をはじめ多くの寺院が被災いたしました。また九月には同じく能登で記録的な豪雨が発生、未だ復興もままならぬ中、多くの方

が被災されました。加えて八月には日向灘で巨大地震が発生、平成二十九年に運用が開始されて以来初めて「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表されました。ちょうどお盆の最中でしたので、様々な場面で影響が出たことは記憶に新しいことでしょう。当宗内でも、お盆の棚経を遠慮される檀信徒の方がおられたり、遠方への棚経を自粛されるなど、少なからず影響が出ているとの報告を受けております。幸

いにして巨大地震が発生することはなく、臨時情報も解除されましたが、地震の予知は現代科学でも難しく、常に備えなければならぬという危機感を日本中の方がお持ちになった一年ではないかと思えます。また、猛烈な台風の襲来、一昨年を上回る猛暑など、私たちを取り巻く自然環境は悪化の一途をたどっているように見受けられます。

#### 令和の米騒動

中でも昨年八月頃からは、米不足が全国各地で発生しました。原因は不明ですが、スーパーなどに行っても、いつもであれば平積みになっている米袋が無く、米を求めて他県に行く人まで現れ、品薄状態となりました。幸いにも新米の季節となり、米不足は解消されましたが、私たちの主食である米がないという事態

は昨今の物価上昇に加え、生活に大きな影響を与えました。

### 米と命『曾谷殿御返事』

宗祖日蓮大聖人在世に思いをはせれば、大聖人在世の鎌倉時代は災害や疫病、飢饉がしばしば発生しておりました。御遺文を拝読しますと、災害について述べておられる箇所は非常に多く、当時の状況を知ら手がかりとして、災害史の面からも重要視されていると聞いております。特に飢饉についての記述は大変詳細で、当時の厳しい状況を感じとれます。

であるからこそ、大聖人は「米」をととても大切なものとして、寄進してくれた信者に対して感謝の言葉を伝えておられるのです。

「米は命をつなぐもの。例えるならば米は油で、命は灯火(ともしび)である。米が無ければ命の

火は続かない。そして『法華経』

は灯火、法華経の行者は油である。正しい教えを修行し、伝える者がいなければ『法華経』という灯火も消えてしまう。そして法華経の行者を支える檀信徒は油であり、法華経の行者は灯火である。支えてくれる檀信徒がいなければ法華経の行者の命は潰えてしまう」

『曾谷殿御返事』という御遺文の一節を私なりに現代語訳いたしました。大聖人に「焼米」を寄進した方への御返事であり『焼米抄』とも言われます。米は命をつなぐ大切なもの、そしてその米をくださる檀信徒がいてくださるから、自分も生きていける、生きていけるから法華経の行者として教えを弘めることが出来るとの仰せです。

### 皆様への感謝

現代でもこの関係は変わりません。檀信徒の皆様あつての法華宗であり、皆様からのお力で私たち僧侶は教えを説き、布教に励むことが出来るわけです。

新年に当たり、今一度皆様に感謝申し上げますとともに、そのご恩に報いるべく、なお一層精進し、来る令和十三年の宗祖日蓮大聖人第七五〇遠忌に向けて、お題目**本門八品 上行所伝 本因下種之南無妙法蓮華経**の広宣流布に勤めていくことを、法華宗僧侶一同を代表しましてお誓い申し上げます。

『法華宗信報』読者の皆様の更なるお力添えをお願いいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

合掌

突撃取材!



編集長  
が聞いてきた!

# 女性の僧侶に インタビュー!

法華宗では女性僧侶が数多く活躍されています。そんな女性僧侶を編集長が取材する本企画。今回は常行寺(大阪府高槻市)の副住職・富岡妙友上人にお話を伺いました。

**Q** どうして僧侶になったのですか?



常行寺を建立した祖父と祖母、また師匠(富岡諦昭上人)の存在が大きく、当初は迷いや不安もありましたが、檀信徒の方々と触れ合う中で「女性僧侶」の道を進む事を決意いたしました。



インドのお釈迦様の時代から女性僧侶は活躍していましたが、現代でも女性僧侶になる決心は、覚悟のいることなんだと改めて感じました。

**Q** 女性の僧侶で良かった事は?

実際のご布教の中で、女性僧侶だからこそ相談いただけることも多くあると実感しました。また仏教に関心のない方やお若い方が興味を持っていただいたり、「話をしやすい」と声を掛けていただいております。



女性僧侶ならではの、より親しみを込めた繋がりが出来るのですね。話し易さは、富岡上人が相手の立場をよく考えておられるからこそだと思いました。



Q

## どんな事が大変でしたか？

一般的に女性僧侶は「俗世を離れているイメージ」を持たれているのかなと感じることがあります。実際は男性僧侶と同じように社会の中でご布教やご教化を行っております。



イメージが先行することもあるんですね。逆に男性僧侶と同じように修行を行うことが出来るのが、法華宗の女性僧侶だと分かりました。

大阪教区  
青年会の  
唱題行にて



お寺での  
法要の様子



Q

## これからの抱負を！

「このお坊さんに拝んで貰いたい」と思っていただけの僧侶に、またその想いに応えられる僧侶になれるよう、これからも精進いたします。また人と人との繋がりを大切に、相手の人生に真心で寄り添える関係を築いていきたいと思っております。

男性・女性の別に関係なく「お題目を信じる気持ち」を持って、相手のことを常に想う富岡上人のお人柄がよく伝わるメッセージだと思いました。



## インタビューを終えて

富岡上人のお話を伺い、改めて男性僧侶と同じように「女性も僧侶になって、お題目を広めることが出来るんだ！」という事を強く思いました。富岡上人の今後のご活躍を心よりお祈り申し上げます！



# 受け継がれる叡智 — 三先生への感謝



## 感謝

### 荏谷定彦・小西日遼・大平宏龍 三先生頌寿記念論文集捧呈式

令和6年9月17日 於：ホテルグランヴィア京都

令和六年九月十七日、荏谷定彦・小西日遼・大平宏龍三先生頌寿記念論文集捧呈式がホテルグランヴィア京都において盛大に執りおこなわれた。今回の頌寿記念論集作成は、三先生のこれまでの学問研究や後進の指導・教育に対して、その学恩に深い敬意と感謝の意を示すと同時に、輝かしい功績を称えるべく、十六名の発起人が企画したのであった。

論文集の刊行は令和三年に企画されたが、新型コロナウイルスという社会情勢の変化により、その計画自体の延期を余儀なくされた。しかしそのような状況下においても、一同の熱意によって編集作業は進み、四十五名の方々の論文が掲載され無事に発刊となった。

荏谷・小西・大平三先生の研究分野は、荏谷先生は『法華経』研究の第一人者として様々な学会で活動をされている。その中でも、先生が法華経から見出された「一切衆生は本来からぼさつである」というご所見は今日、広く学会で認められているところである。

小西殿下は法華宗の歴史研究に力を注がれている。特に日隆聖人をはじめとする法華宗の歴史研究や法華宗大本山本興寺に関する研究の第一人者である。また曼荼羅御本尊や古文書などの法宝物の調査・護持を現在も続けておられる。

大平先生は現在における日蓮・日隆教学の第一人者であり、修行道場である興隆学林において学林長を務めておられる。大平先生のご活躍は法華宗内に止まらず、他門流などにおいても講演活動をおこない、法華宗の正しい教えを発信されている。

捧呈式では三先生に有縁の方々約百名が集い、その学恩に感謝すると同時に今後における益々のご活躍をお願い申し上げたのであった。

学問研究とは、日々の信仰生活における正しさを証明するものであり、その日々の研鑽こそが法華宗を支える根本の一つである。

いまさら聞けない

# まとめ知識!

- 母珠:①釈迦牟尼世尊 ②多宝如来  
 小珠:③上行菩薩 ④無辺行菩薩 ⑤浄行菩薩 ⑥安立行菩薩  
 露珠:⑦毘沙門天王 ⑧持国天王 ⑨増長天王 ⑩広目天王  
 ⑪数取り珠



## お数珠じゆず

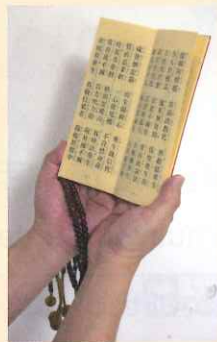
今回はお数珠のお話です。普段はあたりまえのようにお使いいただいているこのお数珠ですが、様々な意味合いを持ちます。

一般的にお数珠は各宗派ごとに形の異なる「本連数珠」と「略式数珠」に分けられます。

法華宗のお数珠は上段の写真のように両端が二本と三本に分かれており、それぞれの部分にはご本尊に勧請されている仏、菩薩、四天王が意味されています。

仏事お勤めの際はもちろんの事普段からお数珠入れに納めて肌身離さずお持ちいただくことをお勧めします。

### その他の持ち方



合掌を解くとき、お経本を読む場合、またはお焼香をする際は左手に掛けておきましょう。

### お数珠の掛け方



右手に2本、左手に3本と振り分け、母珠を中指に綾掛けて合掌します。お題目をお唱えするときやお祈りされる時は合掌しましょう。

※詳細は菩提寺のお上人様にお尋ねください。

参考資料 法華宗作法要典 法華宗信徒必携

## 編集長後記

みなさま明けましておめでとうございます。昨年は法華宗信報をご愛読、ご指導、お支えいただき誠に有り難うございました。

今号の定例企画「いまさら聞けないまめ知識」ではお数珠の意義をご紹介します。まだお数珠をお持ちでない方は法華宗教化センターにて取り扱っていますので、大切な方への贈り物にいかがでしょうか。(右下広告参照)。

また今回は、大阪で活躍している女性僧侶へインタビューしてみました。率直で直向きな声を通じてみなさまにとって何かのきっかけになれば有り難いです。

今年は巳年、一般的に「復活と再生」との意味。みなさまの悩みや心配事が少しでも減り、信心によって心の安穩がより「復活と再生」されることを、編集部一同祈念しております。

編集長 拜

## 法華宗信報

No.176

発行人／金井孝顕

発行所／法華宗宗務院  
〒103-0013  
東京都中央区日本橋人形町  
2-19-1  
TEL 03-5614-3055

編集人／山上晶教

編集部／〒572-0088  
大阪府寝屋川市木屋元町11-4  
本信寺内  
TEL 072-831-0640

イラスト／水野ゆうこ  
印刷所／有本印刷株式会社

法華宗(本門流)  
ホームページ



<http://www.hokkeshu.or.jp>

クイズ!

挑 編集長 からの 戦

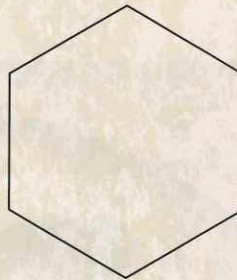
### 文字組み立て

- ①ネ・コ・三  
②十・一・三・十

2 次の文字を組み立てて  
漢字一文字を作ってください。



### 図形



1 左の正六角形に直線3本を加えて  
正方形を6つ作ってください。

ヒント  
立体的に  
考えて

## 法華宗オリジナルの品々!

# 祈りを込めた贈り物



他にも、お経本や写経用紙などなど...

WEBにてカタログをご覧ください!

<http://www.hokkeshu.or.jp/hukyou/center.html>



お求めの場合は菩提寺のご住職、もしくは教化センターまでお問い合わせください。

法華宗教化センター 東京都中央区日本橋人形町2-19-1法華宗宗務院内  
TEL:03-5614-3055 FAX:03-5614-3056

